

平成 25 年度調査研究等計画書

事業名	「宝石サンゴ」に関する漁業調査		
事業年度	平成23年～	事業費 財 源	400 千円 (-) 400 (国) (諸)
担当者 漁業資源課 田ノ本明彦			
<p>【背景・目的】</p> <p>平成 25 年 3 月開催のワシントン条約締約国会議での宝石サンゴに対する附属書Ⅱへの掲載を求める提案はされなかったが、今後掲載が提案される可能性があり、持続的に利用可能な資源であることを科学的に説明する必要がある。</p> <p>また、近年の宝石サンゴの価格高騰により、新たな漁業者の参入など漁獲圧力が増加し、資源の持続的利用に対する対応が必要となっている。</p> <p>これらのことから、本県のサンゴ漁業の実態を把握する。</p>			
<p>【事業の概要】</p> <p>1 操業日誌の解析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収した操業日誌から操業月ごとにサンゴ採捕数量及び採捕区域を把握する。 			
<p>【全体計画とこれまでの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ROV（潜水艇）によるサンゴ観察調査から海域におけるサンゴの分布密度等について知見を得た。 ・GPS データロガーシステムを設置しさんご漁船の情報から、さんご漁業の操業場所、曳網距離、曳網回数等漁場利用の実態を明らかにした。 			
<p>【25 年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・操業日誌を解析し、漁業実態を把握する。 <p>【成果目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝石サンゴ資源の漁獲状況を明らかにすることで、同資源の持続的利用を検証するための基礎資料を確保する。 <p>【期待される効果】</p> <p>次回ワシントン条約締約国会議へ向けて、高知沖のサンゴ漁業が極めて局地的な資源利用であり、その持続についても、一定の漁業規制を行えば、資源の利用上問題がないことを提案できる。</p>			